対話型AIのしくみ（会話の流れも一緒に読み込む）

対話型の生成AIは、前のやりとりをどのように答えに生かしているのだろう

会話（架空）

1 人 犬を飼い始めました。
白くて小さい犬です。

2 AI すてきですね。どんなことを
知りたいですか。

3 人 名前の案を3つ出して。

4 AI 「ユキ」「マシュマロ」「コットン」は
どうでしょう。白くて小さい犬に
合いそうな名前です。

4の答えをつくるときに、AIが読み込むもの

1 犬を飼い始めました。白くて小さい犬です。
2 すてきですね。どんなことを…
3 名前の案を3つ出して。

1〜3の会話の全体が入力になる → AI → 4の答え

もし 3 だけを読み込むと…

「名前の案を3つ」だけでは、何の名前か分からない。
→ どんな名前にも合う答えになり、話の流れに合わない。

前のやりとりも読み込むから、話の流れに合った答えになる

会話が長くなると



読み込める長さ（トークンの数）には限りがある。
入りきらない古い部分は使われず、前に伝えた条件を
「忘れた」ような答えになることがある。

使うときのコツ

- 大事な条件は、もう一度書く
- 話題が変わったら、新しい会話にする
- 会話の内容が残ったり学習に使われたりする設定もある。
  個人の情報は書かない

※ 模式図。会話は架空。読み込める長さや会話を覚えるしくみは、サービスによってちがう。